



発行 KOA 森林塾 (事務局)  
0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

### 第9回森林塾報告 テーマ「林道設計」 『僕の後ろに道が出来る』

週間天気予報の雨が一日早まって金曜日にあがり、森林塾の土曜日はいつものように良い天気でした。ここの十日ほどは最低気温も十七、八度まで下がり、すっかり秋めいてきた信州ですが、やはり午後のトンガでの歩道開設は大汗をかく作業でした。一時間弱の時間で一

人十メートル足らず、全員で二百五十メートル程度の仕事でしたが、出来た歩道を歩いて帰る満足感を味わえました。来し方を振り返れば自分達が作った道。山の風景が身近なものに感じられました。今の時代、チェーンソーなどの道具を担いで一時間歩いて現場へ、というようなまだ

るっこい事はやっていられます。でもわが国の林道密度はヘクタール当たりせいぜい六、七メートルで、これも山の手入れが停滞する一因となっていて、これではますます山から足が遠のいてしまいます。立派な規格のものでなくてもかまいません。取りあえず、車で現場近くまでいける作業道はそこそこの密度で欲しいものです。



「綺麗」に手入れされた信大演習林のヒノキ



「お父さん、ちゃんと覚えている？」と息子が見守る

に、同じ所をたびたび歩いてると自然と道になる、というのが道の起源かもしれない。しかし一度足が遠のいて、ほったらかしてしまつた山は、昔は使われたであろう杉道も、灌木が生え、笹が生えてすっかり分からなくなつてしまつていくはずだ。もう一度、歩ける道を作ってみましょう。百メートルや二百メートルの歩道なら一人、二人で何とか作る自信が今日、できました。山の手に



クマザサの根との格闘。大汗の出る作業だ

#### 今回の内容

第9回 9月1日(土) 林道設計

8時30分 KOAパインパーク集合。あいさつの後、車に分乗。伊那市の東山、信州大学手良沢山演習林近くの野底(のそこ)区有林へ

9時15分 演習林の小屋前で島崎先生からの説明。手良沢山演習林は昭和三十

年代末に等価交換で手に入れたとのこと。ヒノキの宝庫で一年に一ヘクタールの木を切つても全部切るのに百年はかかるそつだ。

林道は大回りしながら林内をまんべんなくカバーするように。始点と終点で百メートルの高低差があるなら千メートルの道を付ける。これなら勾配は十パーセント。人間が楽に歩ける勾配は十二パーセント位

9時50分 班分け。現場に向かう。まむしに気を付けての注意あり

10時20分 三班四班は険しい道を上り、上部の現場へ。インストラ後藤、川島により林道になる部分のブッシュがすでに刈つてあった。いよいよ、測量開始。今回は十メートルおきに五ヶ所の測定ポイント。六月の測量製図以来のコンパスを使うが、ちよっぴり忘れて

いる。行きに斜距離、斜度、方位を計り、帰りに測定の左右二メートルで横断をとる

12時 信大の小屋の演習室をお借りして、製図を開始。平面図、横断面、縦断面、それぞれの図面を書く。島崎先生から補正の仕方の説明

12時40分 製図が済ん



百パーセント勾配に立つ片岡さん



笠箆で横断を測る山浦さん



2本のボールのうち1本は藤野さんです。

で、やっと昼食  
1時40分 それぞれトンガを持って現場へ。現場登り口で、島崎先生が歩道の作り方説明。ササの根をまずトンガで切り、削った土を盛って平面を作る。注意することは土が流れないように。今回



ササや灌木を刈って

は人が通れるくらいの幅五十〜六十センチの道幅。ササの根が頑固で先生の手つきのように簡単に行かない  
2時30分 たつぷりと汗を流して、二百メートル以上の立派な歩道が出来る。山を下りるときはできあ



「お姫様でも通れる道」(保科先生)が出来た

がったばかりの歩道を通って。なんと歩きやすいことか。感動である  
2時50分 信州大学演習林内の一九六十年に植林されたヒノキ林を見学。ぱつと見て出た言葉が「綺麗」でした。続いて沢の反対側にあるカラマツ林へ。ここは六十四年に植林され、八十五年に保残木マーク法で間

伐。ちょうど手が回るほど成長していて、直径が四十七センチほどになっている。  
3時30分 現地で解散

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、中村さん、藤野さん、松ノ元さん、桃澤さん、森さん、夫妻と麟太郎くん、山浦さん、渡辺さん、池田さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん、藤本さん  
講師/保科先生、島崎先生  
スタッフ/椎原、平林、川島、後藤、野口、宮崎、坂野、此村、坪木、早川

次回以降の予定  
第10回 9月15日(土)  
林業先進地の見学  
(根羽村)  
8時30分 KOAパイン



縦断での補正を平面図に移します



森の中の演習室。環境抜群

第11回 10月6日(土)  
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。午前中はロープのアイ加工とぶり縄作り、そして木登りの練習。午後は近くのヒノキ林での枝打ちと、

枝打ち、刃物の手入れ

す。一九七七年から島崎先生が指導し、スギの大径材生産を目指しています。マイクロバスに乗って、先生が最初に保残木マーク法を試みられた浅間神社林等をまわり、見学をする予定です。

パークに集合。(または10時30分根羽村役場)遅れないでね。  
根羽村は長野県最南端、愛知県に接し、県内では有数の林業地です。

刃物砥ぎをする予定です。  
第12回 10月20日(土)  
市場見学を予定しています

ワンポイントレッスン  
「道ができる」と全てが変わる

森への興味が出てくる歩道があるだけで、山の中へ入ることが出来るようになる、「なんだこの手入れのさ」は下草刈りをした方がいい」とか「この森は気持ちの良い森だ」とかプラスもマイナスも森へ入ることで何かを感じる事が出来るようになる。今まで無関心だった人たちが山の中へ連れていくことができる。

作業環境が変わる。歩道があるだけでも仕事現場へ行く苦労が減る。これは労働年齢をも引き伸ばすのである。

はないでしょうか。また、道を基準にして、林内を小さく山割りすることが出来る。経営が変わる  
主伐による収穫までに、数回の間伐が必要で、本数にすれば間伐木の方が大多数である。それだけの回数山で仕事をしなければ、主伐時の利潤はあり得ない。また、もし間伐木で収益が上がるようになるれば...

作業環境が向上することで収益があがるのは確かである。  
歩道でもあるとないとは随分違う。幹線は、緩やかな勾配で大きく林内を巡り、支線を付けることによって、林内にくまなく行けるようになる。道は林業活動を支えてくれる重要なアイテム。植林時に、将来の伐出計画をたて、それに見合った道を作ってしまうか、少なくとも歩道を開設してしまえば、その後の育

林作業や間伐時の作業がしやすいのはもちろんですが、今からでも遅くはない、森の中へ歩道を。その歩道はまさしく森への水先案内をしてくれるものになるはず



# リレー通信

## 森林インストラクターになりませんか!

### 藤野 珠枝



三年前のちょうど今ごろ、私は森林インストラクター資格試験を受けて、何かの間違いで合格しその資格を取りました。その時が私の「森林人生」の始まりです。森林インストラクターが何であるのかも知らずに受験申し込みをしたので、八月の暑いさなか、八日間の養成講習会に参加し夏休み返上で、朝夕方までびっしり講義を受けました。その森に関する様々な講義が私にとっては新しい世界への扉を次々と開けていくような楽しさがあり、そこからはまってしまいました。

長野県須坂市の出身ですがもう二十年も東京での生活で、当時は森へ足を踏み入れることもほとんどなく「現場」を知らずにいたのです。講習会参加者の面々はすごい森に詳しい方ばかりです。その方々から講義以外のたくさんのことを得ました。打上げの席で「十二年計画で五十歳の時には林業に従事していることが夢!」と云ってしまつた私は、その講習会に刺激されましたが、試験まで一ヶ月もないしもちろん連日深夜まで及ぶ仕事はあるし、数回の週末に近くの図書館で過去問題集を見るのが一杯で、試験が出来たとも思えないのですが、なぜか一発合格し、この実力の無い森林インストラクターが誕生してしまつたのです。

また、東京、埼玉、千葉など近くの森林インストラクター仲間の勉強会や研修会にも出る範囲で参加しています。そもそも森林インストラクターとは農林水産省の認定資格として平成三年に始まつた制度です。昨年の合格者でようやく千名を突破し、制度発足後十年経って知名度も上がつてきました。今年からは完全に民間資格となりましたが、環境の時代・二十一世紀を迎え、その人気は急上昇。また有資格者の努力の積み重ねでプロも誕生しています。周りには森林インストラクターを職業として生きていきたい方も多いので皆、本気で、私もそんな方々の後ろにくつついて毎週のように山・森林へ行つています。

私は一級建築士の資格をもつて建築の設計・監理の仕事をしていました。建築と木は切つても切れない関係のはずなのですが、材としての木の性質や強度、木造の工法、歴史を学んでも、建築側の人間の視線がその先の森林に及ぶにはまだまだ距離があるので、建築を仕事としていた私にとつて森のことを知れば知るほど、日本の森林を生き生きとさせるには、森を動かすこと、つまり建築に携わる人間がもつと木や森のことを知らなければ、と気がつきました。建築がわかる林業従事者

なるために「森林塾」に出会いました。昨年Bコースに参加した「森の仲間」が教えてくれたのです。

森林インストラクター仲間には林業家や林業従事者も結構いますが、「林業」をしつかりと語れ、実践出来る人間がまだまだ少ないのが現状です。「郷里・長野県北信地方の山を動かしたい」森林塾の自己紹介でもそう言つた記憶があります。郷里での仕事の機会に、周りには山があり木があるのに地元産の木が建築材として流通していない現状を知つてびっくりしました。その言えは実家の山の木だつてまつたく動いていない...

昭和三十年代の拡大造林時代、祖父や父はわずかばかりの山にスギを植えました。薪炭から石油エネルギーの時代となり、また日本経済の高度成長時代に入り林業では現金収入が見込めないため、山や畑を放つて違う仕事を得て両親は私たち姉弟を育てました。そう考えると、日本の森林を今のような現状にした責任は、そのお陰で好きな職業に就き思うように生きる自由を得た私の世代にもあると思うのです。

責任を感じているからこそ、動かさなければと焦つているのが今の私です。建築に携わる者として、建築と森林とをしつかりと結べば森林は元

気になるとの確信がありまして。森林塾の皆さん、森林インストラクターになりませんか!今年も何人かの方が資格試験を受けるそうですが、皆さんのように山仕事に興味のある方々にぜひ森林インストラクターになつて欲しいです。森林塾との相互作用で実践を伴つての活動も自信を持って出来るので更に深く面白い、とてもありがたいのある資格と実感しています。これからの日本の山をどうするのか、その目的はなにか。行政と市民、市民と山林所有者とが合意し行動していくにはもつともつとたくさんパイプ役が必要です。

初めて鳥崎先生にお目にかかつた日に、私と母は地元森林組合に頼んだ山の手入れがいかにいいかげんか切々と訴えたところ、「しつかり山の手入れを教えるから、お母さんとあなたと自分でやればいーだよ、やれるだよ」と言つていただき、この手で何が出来るのか全く分かりませんでした。前半年の森林塾の実践の中で実家の山でも出来そうだと感じることも多く何かを掴んでいます。まず自分の足元から始めなければ。

森林インストラクターになつて三年。まだまだ実力の無い私ですが、確実にその活動機会は増えています。そして、力強い先輩や仲間たち、もちろん鳥崎先生、保科先生そして森林塾で出会つた皆さんのお陰で夢に一步一步近づいています。

森林を愛する熱心な皆さんの中にいると日本の山も二十年後にはきつといい方向に変わつていく。そう信じている私です。皆さん、どうかこれからもよろしくお願いいたします。

今も両腕の内側に赤くなつた直径一センチ弱の斑点が、何十ヶ所とできています。そしてそれは、とてもかゆいのです。かきたいのですが、ぐつと我慢をしています。かくとますますかゆくなるからです。

私は、奈良と大阪の境にある生駒市に住み、大阪府交野市近辺で造園の仕事をしています。今は、庭木の手入れ時期となつていて、暮れまで続きます。

この手入れが曲者でして、

「庭から森へ」  
久部 芳人

リレー通信



特にツバキ・サザンカのあるお宅では要注意。これらに付くチャドクガの幼虫の毛虫の毛に触れると大変かゆくするので。今のこの両腕のかゆみは、この毛によって起きているのです。ひどい症状の人になると全身にジンマシンができるくらいです。一軒をどうにか終え、やれやれと思うのも束の間、この近辺のお宅には、ツバキ・サザンカは一本くらいはあるもので、次の家に移っても運が悪いと、またやられてしまいます。でも仕事ですから、やらねばなりません。毛虫の付いている葉だけを先に切り落とせば万全と思いきや、この毛はとてもしつこくて、ふわふわと飛んで、いつの間にか体のどこかがかゆくなっています。水を事前に掛ける方法もあるのですが、仕事から急いだりしていると、つい不注意となつてかゆくなつてしまいます。人によっては二三日かゆいという方も

います。私は毎年幾度となくやられているせいか、一日もすれば収まります。ところが、それで安心してはいけません。この毛はどこまでもしつこくて、かゆくなくなつた時の服を他のものと一緒に洗濯しようものなら、その他の服に移つてしまひ、着ただけでかゆくなくなつてしまいますから、たちが悪いのです。

他にも、イラガの幼虫など、刺されると激しい痛みを感じる毛虫や、スズメバチのように、場合によっては、人の命をも奪つ大変危険な虫もいます。とにかく、この近辺の手入れでの被害、その頻度の高さでは、このチャドクガが一番のようです。

ところで、木の手入れ作業として枯れ枝などを丁寧に取去つたりしていますが、場合によるのですが、その木が「喜んでる」と感じる時があります。ただの思い過ごしかもしれませんが...

先日、森林塾を受けた後、寝不足からか頭痛がしてきましたので、一晩、島崎先生の山小屋に泊めさせていただきました。その折、備付けのテレビで放映されたビデオを見ていたところ、同じような事を、ある塾生

の方が言われている場面がありました。それは、森の手入れ方法を教わり、間伐や下草刈りなどをすると、森が喜んでるように感じると。それです。ますますこの仕事にはまり込んでしまったと。

私は、一本の木に対して感じていましたが、森の手入れをする、森自体に対する感情が生まれるのでしょうか。塾を受けさせていたでいる現在、とても興味深いお話でした。

また、島崎先生のお話として、森の木に「そろそろ人間の為になつてくれるか」と聞かれたり、伐採をする時は、その木にお礼を言つて切るとの事。その事を聞いて、私はある本に載つていた事を思い出しました。それは、とある所に、野菜をとてもりっぱに作る集団があり、その代表の人が言うには、作物を愛情を込めて作つていたところ、作物の方から作り方を伝えてきたそうで、その内容がとても理にかなつていたので、そのように育てたところ、とても美味しくりっぱな物が収穫できたのだそうです。また、収穫時作物は、育ててくれた方の為に、美味しくりっぱになるのだとも伝えてきたそうです。嘘のような話ですが、何か島崎先生のお話と同意するようで、私もまた、そのように木との会話ができればと

思ったのでした。

宮沢賢治の作品の『狼森と笹森、盗森』に、新天地を求めめる百姓が、いざ住もうと決めた場所の森に対し、畑を作つたり、木をもらつたり、家を建ててりする事を、一つ一つその森に請うて、了解を得たうえで、その作業を行う場面があります。私には、これが本来の森・自然に対する対応の仕方のような気がしてなりません。

また、ビデオには、すつくと林立する木々の保科先生の森も映っていました。是非その森を見せていただきたいと思ひますし、苦労話も、無いといわれればそれまでですが、何かありましたら、是非お伺いしたいものです。

森林塾、毎回とても楽しみにしてあります。KOAのスタッフ・イントロの方々、準備は大変でしょうが、今後ともよろしく願ひします。

すつかり秋らしくなつた伊那谷では、赤く色づき始めたりんごや大きくなつた栗のいが見られ、まさに味覚の秋を目で感じる毎日です。

スーパの売り場には信州産と名乗る桃やぶどうが並び、愛知では夏の果物だったのに...と気候の違いを改めて感じさせられます。(実家のぶどうは今年28日で終わつ

てしまったそうで二度目は間に合いませんでした。残念。乞う来年)そろそろ朝晩は半袖・短パンでは寒く窓を閉めるか長袖を出すかと、まだ九月になつたばかりなのに、またあの冬が来るんだなあ、と昨年の大雪が頭に浮かんでしまいます。

さて私事ですが、昨年の九月一日、伊那市役所へ転入届を出しました。祝一周年です。右も左もわからない中、諸々の手続きの為あちこち行き、私なりに感じた伊那らしさ。まずは市役所や警察の窓口がとて親切なこと。それから銀行や郵便局に順番待ちの番号札がないこと。どちらも伊那だからという訳ではなく、おそらく人口の少なさ(都会に比べ)に起因するのだらうけど、八年半の都会生活の後ではとて新鮮なことでした。

その後、知らされる伊那市の実態? 午後六時(冬場は五時)に流れる音楽。いまだ何の曲か知りません。突然、校内放送のお知らせ音の後流れる市からのお知らせ。朝昼夜問わず、突如鳴り響くサイレン。消防署から火災の発生と消防団の出勤要請の連絡。いずれも市内の各地に設置されたスピーカーから聞こされるわけですが、家から見える所に2機もスピーカーがあるので実に賑やかです。

深夜ぐつぐつ眠つていてもには必ず起こされます。(そうでないと意味ないのですが)と、原稿を書いている今、市からのお知らせ。明朝六時半と七時に防災訓練のサイレンが鳴るって、そう言えば去年もこの放送聞いたな。

「テッカマン」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994

E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375 (開催日)  
H.P. http://www.koanet.co.jp

「夏が行つてしまつ、やろうとして出来なかつたことがたくさんあるのに」と感傷に浸る年はとうに過ぎましたが、それでも夏の終わりは何か忘れ物をしたような気分になられます。

さて秋。自分の山が無くても一雨降ると落ち着かない季節です。今年の森林塾はきのこ取りが設定してあります。ここ二、三年雑きのこがまったく不作で行つてもまとも採れなかつたからです。時季の設定も難しいし。例年ですと十月初め頃には色々でてるはずですので、もしあつたら6日のお昼はきのこの鍋でも作りましょう。

